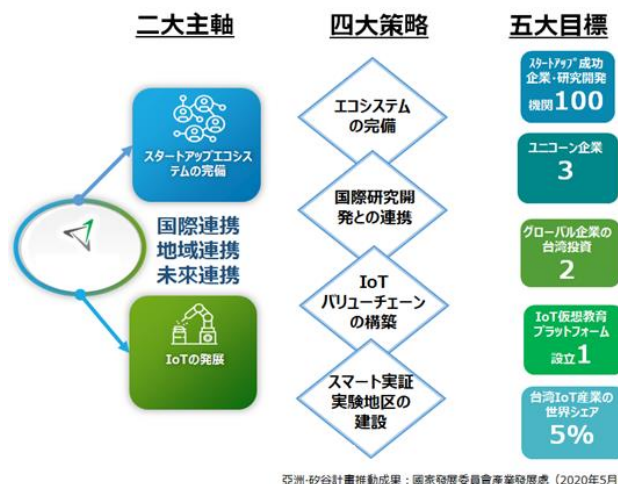


【参考資料2】台湾が推進する「アジア・シリコンバレー計画」

台湾はこれまで、産業高度化を目指す既存企業や起業家の支援を行っており、1980年代には半導体産業において、TSMC（台湾積体回路製造）やUMC（聯華電子股份有限公司）などのスタートアップを育成したことで、世界的な半導体企業へと成長させることにより、台湾の半導体産業を大きく飛躍させてきた。次世代産業への取り組みの加速、インターネット技術革新等の潮流に対応し、世界的にもスタートアップ支援による新産業創出が加速している。台湾としても新産業創出政策の一環として、「アジア・シリコンバレー計画」（2016年から2023年までの8カ年計画：国家發展委員会策定）を策定し、シリコンバレーと連携しながら、IoT産業における研究開発強化とスタートアップ・エコシステムの強化・確立を目指している。

具体的な目標として、①スタートアップの成功又は研究開発機関の設置（100件）、②台湾のユニコーン企業創出（3社）、③グローバル企業の台湾への投資（2社）、④IoT産業の仮想教育プラットフォームの設立（1件）、⑤台湾のIoT産業での世界シェア（2015年3.8%、2020年4.2%、2025年5%）を掲げており、そのために、①資金調達・投資環境整備、②法規制緩和、③研究開発センターの建設、④新たな技術を積極的に実証できる実証実験場の提供を進めている。（図参照）

【図】アジア・シリコンバレー計画（2016年～2023年）



情報源：行政院国家發展委員会アジア・シリコンバレー計画執行センター（ASVDA）を協会が翻訳